

発行

みなとしみず

国土交通省中部地方整備局
 清水港湾事務所
 御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所
 静岡市清水区日の出町7番2号
 TEL. 054-352-4146 (代表)
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

～お知らせ～

・平成29年度 狩野川連合総合水防演習・広域連携防災訓練



2017年5月14日 日曜日開催 メイン会場：三島市長状地先 サテライト会場：静岡市清水区日の出町地先
 どなたでも見学できます。 ※詳細は別添参照



平成29年度 清水港湾事務所事業概要

当事務所では、新たな物流・人流需要を捉え、効率的で信頼性の高い港湾サービスが提供できるよう、港湾施設の機能向上、既存岸壁の老朽化対策、耐地震・津波性能の強化などを各港湾で進めて参ります。

清水港

国際拠点港湾の清水港については“大規模地震・津波への対応力強化”として外港防波堤の「粘り強い」構造への改良、“港湾施設の老朽化対策”として興津地区岸壁（水深10m）、富士見地区岸壁（水深14m）※、日の出地区岸壁（水深12m）の改良を行います。

※新興津地区への土砂処分含む



御前崎港・田子の浦港・下田港

重要港湾の御前崎港と田子の浦港、および避難港の下田港については引き続き事業進捗を図って参ります。（【御前崎港】防波堤（東）整備と防波堤の「粘り強い」構造への改良 【田子の浦港】国際物流ターミナル整備としての航路泊地浚渫 【下田港】避難港としての防波堤整備）



御前崎港防波堤灯台製作見学会が開催

平成29年1月28日(土)、防波堤(東)の先端部に設置する灯台の製作が完成を迎えたことから、御前崎港西ふ頭内の灯台製作現場において見学会を開催いたしました。防波堤(東)は、沖合からの波を受け止め、御前崎港内を静穏にし、船の荷役ができるようにする施設です。

当日は、天候にも恵まれ、富士山が背後に見えるロケーションの中、県内外から集まった親子連れ、漁業研修中のインドネシアの青年など45名が見学会に参加されました。

完成した灯台は、高さ9m、重さ42t、灯台の光の到達距離11km、全面白色タイル張りの灯台であり、足場を使い、灯台を間近から見学し、灯台の高さ、大きさ、灯台のレンズの灯り具合等を体感しました。参加者からは「普段見ることが出来ない沖の灯台が間近に見られて良かった」、「製作中の作業状況や設置された灯台を是非見てみたい」等の感想が寄せられました。この灯台は2月1日(水)防波堤(東)先端に無事設置され、3月2日(木)初点灯されました。本灯台の点灯により、さらなる、御前崎港内の船舶の航行安全が図られることを期待しております。

この見学会を通じ地域の方々に港、防波堤、灯台の役割について理解を深めていただくことが出来たと思います。



<灯台製作現場見学の様子>



<灯台上での見学の様子>



<灯台設置完了後の様子>

春休み みなと見学会を開催しました!

3月23日(木)、我が国の経済にとって重要な役割を担う「清水港」について、地元の皆様に身近に感じていただくため、清水港見学会を開催しました。

当日は、清水港内遊覧船「パイプロムナード号」に148名の方が乗船し、「清水港の施設」や「港の役割」の説明を受けながら、普段は見るのが難しい港内の荷役作業や地球深部探査船「ちきゅう」などを海上から見学しました。

清水港は、最も面積が小さい港でありながら活気に富み、コンテナターミナルやエネルギー関連施設、チップ、穀物などのバラ貨物を扱う施設など様々な役割を持った施設が配置されています。

また、美しい景観を有した日本三大美港の1つとして、近年は、大型客船の寄港も増加していて賑わいも有した港です。

見学された参加者の方々は、皆興奮した様子で、約1時間の港内見学を楽しんでいました。



<記念写真撮影の様子>



<屋上から地球深部探査船 ちきゅうを見学>

石井国土交通大臣 清水港視察

平成29年1月29日（日）、石井国土交通大臣が静岡県内の事業の視察のため清水港に訪れました。

まず、日本平から、清水港の全景を望みながら、港内の多様な港湾機能や富士山に協調した港空間の景観形成を視察されました。

その後、清水港新興津地区では、コンテナターミナルの稼働状況や人工海浜の進捗状況について地元自治会の方も交えて説明を受けました。

クルーズ船が着岸する日の出地区では、難波静岡県副知事による「国際クルーズ拠点形成港湾に関する応募等の状況や将来的な目標」と共に「今後の具体的に取組む重点整備の方針」について説明を受けました。

続いて、馬場清水港湾事務所長から現在行われている日の出岸壁改良工事が説明され、係船曲柱の大型化によって得られる、世界最大級の22万GT級（最大全長362m）のクルーズ船に対応可能な係留機能強化や、背後スペースが利用可能となることによる、利便性や安全性の向上などの改良効果について、大型係船曲柱を間近に見ながら説明を受けました。

工事説明の後には、マリントーミナルに場所を移し、地域が連携した清水港の客船誘致の取り組みについての説明がありました。

はじめに、望月薫清水港客船誘致委員会会長（アオキトランス代表取締役会長）から、清水港における四半世紀以上に渡る客船誘致の取り組みや、清水の文化を継承する清水芸妓、世界文化遺産に登録された富士山の世界的な知名度や魅力など清水港の持つ多様な魅力が紹介されました。清水芸妓の方からは早朝の準備の大変さや外国の方が喜んでくれたときのやりがいなどを紹介していただきました。

さらに地域の魅力を発信する新たな試みとして取り組まれた県内食材のクルーズ船への提供について、静岡市の「竹沢製茶」から、静岡県安倍川を産地とするお茶の歴史や伝承と、同じく県内産の食材から創られたアイスとコラボし製品化した抹茶アイスクリーム、また「由比港漁業協同組合」からは、深海200mでとれる桜エビの沖漬けと開発にまつわる話が紹介されました。

石井大臣は記者会見において「官民連携して、いろんなおもてなしをしっかりとやっていると言うことで、ソフト・ハードともに、これからクルーズ船受け入れる準備が整っている。これを契機に地域の活性化につながる取り組みを期待したい」と述べられました。試食を含め終始和やかな雰囲気が進めることができ、大成功に終わりました。



＜新興津地区での説明の様子＞



＜難波静岡県副知事による説明の様子＞



＜馬場清水港湾事務所長による説明の様子＞



＜客船誘致の取り組みについての説明の様子＞

官民連携による国際クルーズ拠点形成港湾に選定

大型クルーズ船で日本を訪れる外国人旅行者が急増する中、国土交通省は平成29年1月31日、清水港など全国6つの港を「官民連携による国際クルーズ拠点」に選定しました。

清水港は、静岡県とゲンティン香港が連携し、2030年には「連携するクルーズ船社の母港化」、「北東アジアクルーズの東日本における拠点化」を目標とする目論見書が出されています。

目論見書には、国際クルーズ拠点形成港湾として、「起終点港にふさわしいクルーズターミナル整備」、「フライ&クルーズ*と広域観光による需要開拓」、「クルーズ関連産業の育成」、「日本の象徴となる文化的魅力のあるみなとまちづくり」に取り組んでいく方針が打ち出されています。（下図参照）

*フライ&クルーズとは、クルーズの発着港まで飛行機で行き、乗船してクルーズ旅行を楽しむこと。

【目論見書の概要】※静岡県資料より引用

背景

新東名高速道路、圏央道、中部横断自動車道が2020年までに開通予定

高規格幹線道路ネットワークが拡充
+
富士山静岡空港、羽田空港、セントレアの発展

関東・東海・甲信地区における清水港の広域観光における拠点性が、今後急速に高まる

2030年の姿

連携するクルーズ船社の母港化

+

北東アジアクルーズの東日本における拠点化

母港：特定のクルーズ船社の船がクルーズの起終点とする港、そこで食材や燃料を調達する港
 拠点：“特定の船社の母港化”とそれ以外の船社の船も頻繁に来る“魅力のある寄港地”であること

具体的な取組み

- ① 起終点港にふさわしいクルーズターミナルの整備
- ② 「フライ&クルーズ」と「広域観光」による需要開拓
- ③ クルーズ関連産業の育成
- ④ 日本の「象徴」となる文化的魅力のある“みなとまちづくり”

2030年 【目標年】
175回 65万人/年
うち連携するクルーズ船社 105回 52万人/年
経済波及効果 560億円/年

将来

大型クルーズ船の2隻同時接岸と迅速なCIQが可能 ※協議中の事項

「特定の船社のクルーズ船」と「その他の船社の船」が同時接岸可能な

複数のクルーズ船用バース

起終点港として必要な**CIQ機能などを有する旅客施設**

清水港で「清水海洋展」開催！

2月18日(土)～26日(日)の間、産学官連携した清水海洋展連絡会が駿河湾や清水港をテーマに、歴史文化から海洋技術に至る様々な海の魅力を紹介する「清水海洋展」が開催され、約1,500人の方に訪れていただきました。

海洋展には、東海大学海洋学部をはじめ、掘削調査を行う、海洋研究開発機構(JAMSTEC)などが参加し、研究活動のパネル展示や、駿河湾の深海を紹介する講演会が行われました。

当事務所も、模型を使った防波堤の効果コーナーや、しゅんせつ船*を見学する港内見学を行い、約60名の方々に参加していただきました。

*水底の土や砂を掘り取って水深を深くする船。



<研究活動のパネル展示の様子>



<防波堤の効果体験コーナーの様子>



<港内見学の様子>

清水港 ROV 実海域試験

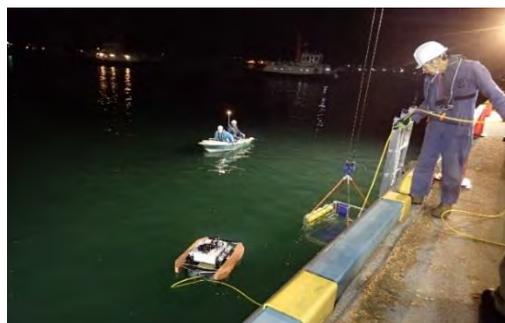
清水港内の富士見3号岸壁にて、名古屋港湾空港技術調査事務所が新型無人探査機〔ROV(Remotely operated vehicle)〕を用いた栈橋下面点検の現地実験を1月31日(火)～2月1日(水)の夜間に実施されました。

港湾構造物の栈橋の下面は、狭く薄暗いだけでなく着岸船舶・潮位・波浪等による制約を受けることが多く、人による目視点検が困難な場所です。今回このような栈橋下面の点検作業でROVを用いて調査を実施した結果、実験時は最大波高が0.2m程度の静穏な状態であり、波浪等の動揺が点検作業に及ぼす影響は確認できませんでした。既設鋼管杭の位置情報(事前にROVへ登録)と杭の検知により、補助設備として外部測位を用いずに点検位置を把握できました。

ただし、今回の調査ではひび割れの幅・長さまでは計測できないため、別途、該当箇所を人により詳細な目視が必要となりました。また、現地作業後に撮影写真から分析に要する時間は約2倍必要になるなど、さらなる改善が求められています。



<現地実験に使用したROV>



<現地の実験状況>



<栈橋下面の結合写真>

シリーズ「モノから見える清水港」⑥(全10回)

御座船(ござぶね)

フェルケール博物館の第3展示室には約1/10の大型和船模型が8艘も並んでいます。その中でも“御座船”は、別名で御召関船(おめしせきぶね)とも呼ばれる豪華な船です。一見してわかりますが、船体を漆で塗り、金メッキを施した金具を付け、船上には箱型になる矢倉が設けられ(写真では葵の紋幕がある部分)、その上に将軍や大名が着座する御座の間を置いた“屋形”がのっています。江戸時代には大名たちは御座船で風流を楽しみ、参勤交代にも使用したといえます。前回、引用した『清水湊旧記』には徳川家康と10男の頼宣が各々の御座船の長永丸と大広丸を清水湊に係留していたことが載っています。彼らはしばしば駿府城から清水湊まで馬を走らせ、御座船を出航させて三保の貝嶋御殿まで遊覧し、富士山の眺めを楽しんでいました。これらの御座船を納めた船蔵は現在の清水区村松の清水小学校の南側にあったと伝えられており、元和6年(1620)には、入江の片羽(現在の片羽町内)に移されたといえます。また、家康の長永丸船には、50挺の櫓が付き、黒漆塗りで7回も金メッキが施された葵文の金具で飾られていた、と記されています。この長永丸は家康が亡くなると江戸へ回漕されて隅田川畔の幕府の船蔵に納められました。

戦国時代には、大型の武装艦の安宅船(あたけぶね)とやや小型の関船、そして小さくて船足が早い小早(こばや)があり、これらが集まって水軍を形成していました。御座船は御召関船とも呼ばれたように、戦国時代の水軍の“関船”を平和的に使用するために江戸時代に改装したものです。船首には鼻のように伸びた水押(みよし)があり、屋形は2階もしくは3階の櫓構造となり、上段の間は寺院に見られるような格天井や襖絵で装飾されていました。博物館の常設展示室では帆を張って展示していますが、実際は数十も付けられた櫓で進み、帆走することはなかったといえます。このように豪華な船であったため、御座船に掛かる維持費は膨大なもので次第に幕府や大名家の財政を圧迫し、江戸時代後半には船蔵に納めたまま海に浮かべることが少なくなっていきました。残念ながら現在まで遺る御座船はありませんが、肥前熊本藩の波奈之丸(なみなしまる)の御座所(正式には「細川家舟屋形」)が熊本城に移築されています。現在は国重要文化財に指定されており、見学することができます。

さて、ここまで話しをして皆さんは気がつきませんでしたでしょうか!? 今では、隅田川を始めとして各地の川に浮かぶ“屋形船”の原形は、この“御座船”にありそうです。屋形船で宴会をしながら川を下るのは大名気分を味わうことだったのです。徳川家康にちなみ、清水港にも一艘浮かべてみたら素敵でしょうね。



<御座船模型(左側が関船)>



<模型の屋形内>

※ このシリーズは「(仮題)フェルケール博物館」について寄稿によるもので、今回は連載6回目です。

榎原 靖弘(ちんばらやすひろ) 1962年 藤枝市生まれ。フェルケール博物館 学芸部長

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれみなと

0120-497-370

受付時間: 9時30分~12時、13時~17時(土・日、祝祭日は除く)

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

江口・坪倉 Tel 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。



pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp

狩野川流域における 過去最大規模の演習

平成29年度 狩野川連合総合水防演習・ 広域連携防災訓練

どなたでも
見学できます



※写真はイメージです。



平成
29年
日時 5/14 日

9:00～12:00 ※小雨決行
サテライト会場は10:15～11:30

メイン会場 静岡県三島市長伏地先
(狩野川右岸9km付近)

サテライト会場 静岡県静岡市清水区日の出町地先
(清水港日の出埠頭)

主催 国土交通省中部地方整備局、静岡県、三島市、沼津市、伊豆市、伊豆の国市、裾野市、函南町、清水町、長泉町

協力

気象庁静岡地方気象台、国土地理院中部地方測量部、陸上自衛隊第1師団、海上自衛隊、第三管区海上保安本部、静岡県警察本部、静岡県消防防災航空隊、静岡市、富士山南東消防本部、駿東伊豆消防本部、(一社)静岡県建設業協会、(一社)沼津建設業協会、(一社)三島建設業協会、(一社)清水建設業協会、(一社)静岡県建設コンサルタンツ協会、(一社)港湾技術コンサルタンツ協会、中部地方防災エキスパート、(一社)リバーテクノ研究会、三島市中郷地区自治会連合会、順天堂大学保健看護学部、三島市立中郷西中学校、三島市立長伏小学校、三島市医師会、順天堂大学附属静岡病院、特別養護老人ホームかわせみ、(一社)日本埋立浚渫協会中部支部、(一社)日本海上起重技術協会中部支部、中部港湾空港建設協会連合会、全国浚渫業協会東海支部、(一社)海洋調査協会、(一社)日本潜水協会、(一社)静岡県トラック協会、(公社)清水清港会、鈴与(株)、清水コンテナターミナル(株)、清水埠頭(株)、(株)エスバルスドリームフェリー、NPO法人中部みなと防災ネット、(株)エフエムみしま・かんなみ(予定含む)

後援

全国水防管理団体連合会、(公社)日本河川協会、(一財)河川情報センター、(公財)河川財団、(一社)中部地域づくり協会、(一社)建設広報協会、(一社)日本建設機械施工協会

会場案内

●演習当日、会場へのアクセスは現地係員の指示に従って下さい。

メイン会場

静岡県三島市長伏地先
〈狩野川右岸9km付近〉

三島駅より車で約15分。
東海バス「長伏南」より徒歩約15分。

※駐車スペースには限りがあります。
最寄りの公共交通機関をご利用ください。

サテライト会場

静岡県静岡市清水区
日の出町地先
〈清水港日の出埠頭〉

東名高速道路清水ICより車で約15分。
静鉄バスジャストライン「波止場フェルケール博物館」バス停より徒歩5分。



プログラム

●演習内容につきましては、変更または当日の悪天候等により中止する場合があります。

気象・水象情報（想定）

9:00~

9:30~

避難判断水位

避難準備・高齢者等避難開始発令

10:00~

氾濫危険水位

避難勧告の発令

狩野川堤防決壊による氾濫発生



TEC-FORCE派遣



仮設橋

11:00~



被災者搬送

~12:00

河川災害

メイン会場

(狩野川右岸9km付近)

開 会 式

演習開始の号令
気象情報提供
災害対策本部の設置
河川巡視
水防準備（土のう拵え）
災害対策本部体制の切替
水防工法①〔洗掘防止対策〕
土砂災害に備えた避難

水防工法②〔漏水防止対策〕
水防工法③〔越水防止対策〕
水防工法体験

ヘリによる被災状況調査
TEC-FORCE派遣
道路啓開①（捜索）
排水ポンプ車による排水作業
ドローンによる被災状況調査
仮設橋の設置
道路啓開②（救助）
トリアージ・医療救護活動
ヘリによる水難救助訓練
決壊堤防の荒締め切り

被災者搬送・ドクターヘリ搬送
道路啓開③（啓開）
ヘリ（陸自）による物資輸送訓練

閉 会 式

高潮災害

サテライト会場

(清水港日の出埠頭)



荷役機械・コンテナの転倒防止



水門・防潮扉の閉鎖

荷役機械・コンテナの転倒防止
木材の流出防止
水門・防潮扉の閉鎖



被災状況調査

漂流者救助（船舶）
漂流者救助（ヘリコプター）
被災状況調査（上空・陸上・海上・海面下）
航路啓開及び岸壁背後地の啓開
緊急物資の輸送
緊急物資の海上輸送

◆車両展示・パネル展示

メイン会場では、災害時に活躍する車両展示、防災に関するパネルや最新の防災機器の展示など水防について学べるコーナーも設置します。

※写真はイメージです。

